

たにわき おんちく  
谷脇 恩竹 (1693~1762)

俳人。商人。宇和島城下(現、宇和島市)を中心に活動した人。本名は六郎右衛門。若い頃、俳諧をたしなみ、談林派の椎本芳室しいのもとほつしつに入門している。浦川富天うらかわふくてんの『棗亀なつめがめ』にも登場し、連句の『妻戸埜波那とのはな』にも句を寄せるなど、宇和島俳壇の中心的存在であった。

## 略歴

元禄6(1693)年	出生
寛保2(1742)年	富天編『棗亀』刊行。恩竹の句が収められている。
寛保3(1743)年	芳室編『妻戸埜波那』刊行。恩竹の歌仙が収められている。
宝暦11(1761)年	大坂を旅する。 半折坊勃父編『おさな杖 <small>はんせつぼうぼつふ</small> 』刊行。恩竹は序を著している。
宝暦12(1762)年	70歳で永眠

〈関連図書〉

- ・星加宗一『愛媛文化双書23 伊予の俳諧』愛媛文化双書刊行会 1975年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』愛媛県 1984年

〈ゆかりのある場所〉…(P297, 133)